



名古屋大学工学部、電気電子・情報工学科 4 年の坂口潤将です。4 部門では工学系と理学系が共同で研究を行っており、私が所属している町田研究室は工学系に属しています。今回は、卒業研究と、大学院入試について書きたいと思います。

私は高専から名古屋大学に 3 年次編入しましたが、高専と大学を通して興味を持って勉強していた分野は半導体や情報通信でした。ですので、4 部門で行っているような宇宙の研究は私にとってあまり馴染みのないものでした。正直にいうと、希望の研究室の選考に落ちてこの研究への配属が決まった時は、少しショックでしたが、今まで勉強したことのない新しい分野に挑戦するのも悪くないかと思うことにしました。実際、磁気リコネクションのシミュレーションの解析という研究テーマを頂き、それは、非常にやりがいのある研究でした。今まで勉強した事のない分野だったので、苦労はしましたが、先生方や先輩方のご協力を頂き、なんとか卒業論文も仕上げる事が出来ました。特に 4 部門では、理学系の方もいるので、わからない事があると、理学、工学問わずに質問にいき、時には先輩が帰ろうとする前に呼び止めて、2 時間以上議論したこともありました。

また、町田研究室では週一でセミナーを行っており、毎回、担当学生が研究の進捗状況を発表します。私は人に自分がやっている事や理解している事を説明するのが非常に苦手で、最初は前に立つと何を喋っていいかもわからず、作ってきたスライドをそのまま棒読みするというような状況でした。しかし数を重ねるうちに、発表することに対して自信をもつことができるようになり、卒業研究発表でもあまり緊張せずに喋ることができました。まだ、学会のような大きな場で発表をしたことはありませんが、このセミナーを通して人前で発表するという事に関して本当に鍛えられたと思います。

さて、4 部門及び町田研究室では様々なことを学ばせて頂き、研究も非常にやりがいのあるものでしたが、私は量子コンピュータに興味があり、大学院ではその研究をしたいと思っていたので、そのまま進学はせずに、他大学院へ進学する道を選びました。院試勉強と研究との両立についてですが、4 年生前期は、まだ本格的な研究をせず、研究につながるような事（理論の勉強やプログラムの書き方等）を学び、7 月頃に一度発表してからは、

1 か月半程度、大学院入試の勉強を集中して行うことが出来ました。その結果、無事に東京大学の希望の研究室に合格することができました。分野は全く異なりますが、4 部門で学んだ事を生かして、これからも研究に励みたいと思います。